



沖縄のより良い未来のために!

7期目スタート! わったバス党



路線バスの積極的な活用で沖縄をもっと快適にし、より良い未来を実現しようと奮闘を続ける「わったバス党」が、ついに7期目に突入! 結党時に掲げた「マニフェスト」7つの「もつと」の実現に向け、県民の期待にさらに応えるべく邁進するあさとゆうこ党首(70才)、あさとばん幹事長(70才)に、今期の意気込みを聞きました!

——これまでの活動を振り返っての感想を。

ゆうこ: バスがわかる。バスでわかる。をスローガンに、沖縄をとにかく快適にしたい想いで、地道な活動を続けてきました。ホントにいろんなことがあったね、幹事長?

ばん: だからね。6年間がんばってきたらバスも変わってきたし、ウチナクのみなさんの意識も変わってきたよね。

ゆうこ: 数々の実績も積み上げてきましたよ。党員1万人突破、そして法人党員の募集! うまみちのみなさんにも、企業のみなさんにもわったバス党の輪が広が

がってうれいさ。

——結党時に掲げた「マニフェスト」は実現できているか?

ゆうこ: Yes、オフコース! ノンステップバス導入やバスレーン延長で、「乗りやすく」「スムーズ」になって、バスの現在位置も「バスなび沖縄」でわかるなど、「安心」できるようになってきたでしょ?

ばん: 確かに! それに、バス停の時刻表や行先表示で「わかりやすく」もなってる。バス停もグレードアップして県民の足として「確実に」もクリアー!

ゆうこ: でしょ!? こんなに快適になってるんだから、バスに乗った方がいいよ、みなさん!

ばん: その通り! あ、でもちょっと待った。じゃあ「スマート」はどうかだわ?

ゆうこ: それもまかせなさい!! IC乗車券OKICAの導入で、バスの支払いも乗り降りもで「スマート」になってるんです!

ばん: だけどだ、あんなのカラダ、この6年間でさらに大きくなってるとよね? 「スマート」に合わせてダイエットするんじゃないのか?

ゆうこ: No! 私はさらにBIGに成長し続けることをここに宣言します! 沖縄のためにね。

ばん: うーん、なんかこじつけっぽい(疑)。

——最後に今期の意気込みを!

ゆうこ: バスを気軽に使いたくするような取り組みを進めて、ウチナクの暮らしをもっと上等にしていきたいさ!

ばん: そうそう。みなさんの声も今期の活動にもっと生かしていきますよ!

ゆうこ: 秋には新しいバスターミナルも完成するさ、ね。運行状況が常時表示されるなど、ますますバスが便利になるから超楽しみ!

ばん: だからよ。路線バスの利用もさらに便利になるね。バス乗らないとホンともったいなさ。

ゆうこ: 幹事長、バス党のオフィスもバスターミナル内に用意してちょうだいね。できるよ、ね? (汗)

ばん: ……え、うーん、オジとオバーは今期もがんばります! みなさん、応援ゆたしく!!

ゆうこ: 今期はイベントでみんなにはんない会いに行くからね!

Facebookをチェック!



わったバス党では、今期もコンテンツをたくさんご用意して、元気にPRを行っていきますよ~! Facebookでは大好評実施中の、週替わりのお題にひとひねりある楽しい投稿で答える「バス通大喜利」に加え、ラジオ番組との連動で、バスでお出かけるグルメ企画「おすすめメシ」やバスの豆知識など、新コーナーが登場予定。

Instagramでは「バスのある日常」をテーマに、引き続きバスフォトコンテストを開催します! ぜひ投稿してね。わったバス党Webサイトの「ゆうこの部屋」からもアクセスできます。気軽に遊びに来てね!

Facebook: わったバス党

7もつと。

- わったバス党マニフェスト
- ① もっと乗りやすく。
 - ② もっとスムーズに。
 - ③ もっと安心を。
 - ④ もっとわかりやすく。
 - ⑤ もっとスマートに。
 - ⑥ もっと確実に。
 - ⑦ もっとやわらかく。

OLはす美の人間観察日記

バスレーンでスムーズだね

あ、イケメン!

もしかして、私の恋の兆徴も解明かしら〜?

あら、もうお別れ!!

今年もやります! 小学生の自由なアイデア 大募集!

平成30年度 **かなえ! 夢バス** 図画コンクール

小学生は、みんな天才!

最優秀賞の絵はバスのボディに!

テーマ 「わった～夢バス」～あったらいいな、こんなバス～

【応募期間】 2018年6月18日(月)～2018年9月7日(金)

TEL.098-862-8280

今年で4回目となった「夢バス図画コンクール」。沖縄の小学生なら誰でも応募できます! 「あったらいいな、こんなバス」をテーマに、ステキなバスを絵で表現してみよう。

「かなえ! 夢バス図画コンクール」事務局(株式会社アカネクリエイション内) わったバス党Webサイト www.watta-bus.com/yume_bus

沖縄の公共交通をもっと便利に！さらに快適に！

ご存じですか？バスを取巻く環境は進化中！

沖縄県では、県民の移動しやすさ向上や交通渋滞の緩和等を目的に、路線バスをはじめとする公共交通の利用を促進する施策を進めています。ここでは主な取り組みをご紹介します。

■バスをもっと乗りやすく、快適なものに

「ノンステップバスは、入口の段差を低くして乗り降りをラクにしたバス。お年寄りや障がいのある方、小さな子どもたちにも乗りやすく、みんなに優しいバスとして、平成29年度までに212台を導入しました。今期はさらに4台の導入を予定。優しさの輪が広がっています。

運賃の支払いもピットかざすだけでカンタンになりました。平成27年4月からはIC乗車券「OKICA」が路線バスでも使えるようになり、小銭の準備や両替の手間が省けて乗り降りがとってもスマートに！朝夕のラッシュ時の利用は、定時運行を心がけているバス運転手にとっても停車時間が短くて済むと好評です。県民のみなさんのご要望にお応えして、バス停の近くや商業施設などにOKICAチャージ器を10台増設しました。

■バス停や時刻表、車内の表示もわかりやすくキレイに

国道58号沿いのバス停を中心に、屋根や照明、ベンチが設置されるなど、バス停もキレイになりました。

バス停表記も大きく見やすく時刻表も系統別に色分けされわかりやすくなりました。「バス停グレードアップ」は平成29年度までに48基が行われ、今期はさらに3基が整備予定です。

また、年々増え続ける沖縄県の外国人観光客のニーズに応えるため、路線バス車内には多言語表記による「デジタルサイネージ（液晶ディスプレイ）」の案内もスタート。今後増設予定です。

■急行バス実証実験やバスレーン延長、座談会も実施

慢性的な交通渋滞の緩和を目的に「バスレーン延長」も実施。朝は宜野湾市伊佐から那覇市久茂地まで、夕方は那覇市旭橋から浦添市牧港まで、それぞれ延長となりました。これにより通行がスムーズになり、朝は約4分、夕方約8分、移動時間が短縮。今年度以降は夕方のバスレーンを宜野湾市伊佐から沖縄市コザへ段階的に導入していく計画もあります。

那覇バスターミナルから沖縄市コザまでを結ぶ「急行バス実証実験」も平成28年よりスタートし、移動時間が平均で14分短縮されました。今年3月までに9万人以上が利用。今期も継続運行中です。

また、国道58号を通過する路線バスの定時速達性を高めるため、昨年度までに175台のバスに「公共交通車両優先システム（PTPS）」を導入。

グーステラ	212台	バスレーン(南)	約4分減
グレードアップバス停	48基	バスレーン(北)	約8分減
行き先電光表示器	241台	急行	平均14分短縮
車内案内表示器	502台		25.6万枚
PTPS(約6分減)	175台	バスナビ	56万アクセス/月

※H29迄の実績

時間通りに運行できる路線バスを目指して

<公共交通活性化とバスレーン延長に関する>
県民アンケート実施中

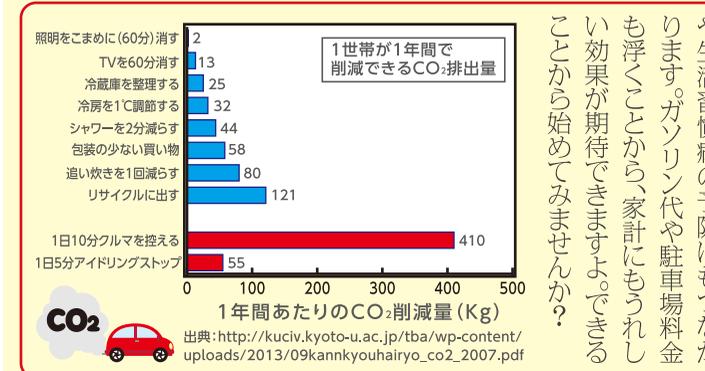
詳しくは、沖縄県 交通政策課へ

ご協力をお願い致します。

バスが信号をスムーズに通過できるように、交通管制センターで青信号の延長を行うもので、今期もさらに30台の搭載を予定しています。

このほかにもバスの利用者や運営する企業側、行政や学校現場など、さまざまな立場から公共交通の利用促進や利便性の向上をともに考える「座談会」も開催しています。

路線バスやそれを取り巻く環境はハードとソフトの両面で大きく変わり、利便性や快適性は格段にUPしています。実際にバスを利用して、その変化を実感してみませんか？



自分のできることで「交通渋滞」や「CO₂」を減らそう！

テレビをこまめに消したり、エアコンを省エネモードにするより、何十倍も効果的にCO₂が減らせる方法はクルマの利用を減らすこと。あるデータによると、クルマを使う人の1日のCO₂排出量は、クルマを使わない人の2倍以上になるそう。沖縄の豊かな自然を守るためにも、まずは1日数十分、週に1日からでもクルマの利用を控えましょう。

また、交通渋滞は経済の損失を招きます。那覇都心部の渋滞は、東京や大阪などの大都市に匹敵するそう。まずは週に1日からでもOK！路線バスの利用で渋滞緩和に貢献できたらうれしいですね。

マイカー通勤をバスや徒歩、自転車に切り替えれば、バス停との往復や通勤時間がそのまま健康増進タイムに変身！肥満の改善や生活習慣病の予防にもつながります。ガソリン代や駐車料料金も浮くことから、家計にもうれしい効果が期待できますよ。できることから始めてみませんか？

第3部では、中村文彦教授をコーディネーターとして、「公共交通利用の課題と利用促進への提案」をテーマにパネルディスカッションが行われました。その中で、内閣府沖縄総合事務局菊地次長からは、平成29年度に実施した「わった〜バス大実験」での検証結果として、自動車交通量1〜2割の削減で渋滞が

路線バスなど公共交通機関の利用促進や交通渋滞緩和をテーマとして、平成30年4月10日、那覇市の沖縄県市町村自治会館において「公共交通利用促進シンポジウム」(共催：内閣府沖縄総合事務局・沖縄県)が開催されました。本シンポジウムの第1部では、路線バスの利用促進に取り組み「わった〜バス党法人役員」のうち、顕著な功績があった3団体(損害保険ジャパン日本興亜、葦の会オリブ山病院、沖縄銀行)に対し表彰が行われました。

第2部では、横浜国立大学理事・副学長の中村文彦教授より「バスがまちを変えていく〜沖縄への期待」と題して、海外でのBRT(バス高速輸送システム)活用事例を紹介しながら、BRTよりも速く、大量かつ安価に人を運べるART(次世代都市交通システム)の導入などバスの理想形やバスの利用促進のために行政や事業者が一体となった取り組みが求められることなどについて基調講演が行われました。

～沖縄の公共交通の未来のために～

平成30年 「わった〜バス党法人役員」 およびサポーターを募集中！

STOP交通渋滞！NO MORE経済損失！
沖縄のより良い未来をともに築いていきませんか？

詳しくはわった〜バス党Webサイトをご覧ください。
www.watta-bus.com

わった〜バス党 検索

1〜4割程度削減されることが報告されました。また、10日に1日または10人に1人がバスなどを利用するだけで渋滞が緩和される、時差出勤も渋滞緩和効果が高いなどの説明がありました。

沖縄県経営者協会安里会長は、県経済の発展のため渋滞対策は喫緊の課題であり、公共交通利用促進には企業トップの声かけが重要であること、県民意識への効果的な働きかけや企業へのフォローアップの仕組み作りの重要性を来場約330人に呼びかけました。

「3団体表彰式」の様様